

エッジ側技術を基軸とする IoT システムのプラットフォーム化を推進する

「エッジプラットフォームコンソーシアム」が発足

～～～ クラウドからスマートエッジへ ～～～

エッジ側技術を基軸とした IoT システムのプラットフォーム化活動に賛同する企業、大学など 31 機関（別紙参照）は、2017 年 5 月 31 日に「エッジプラットフォームコンソーシアム（EPFC）」を設立しました。同コンソーシアムの理事長には、東京工業大学科学技術創成研究院 研究院長の益 一哉教授が就任しました。

■ コンソーシアム設立の背景と現状の課題

昨今 IoT が進展する中で、クラウドを基軸としたプラットフォーム化の議論および提供は活発化していますが現場におけるデータ収集の方法やセンサシステムの構築などのエッジ側の議論は十分にされておられません。

IoT は、身近に溢れる多種多様なデータから新しい価値を提供する仕組みであり、現場に立脚したデータ収集の手段・方法と新しい価値を提供する共通の基盤の整備が必要です。事業現場では IoT の導入が進みつつありますが、普及しているクラウドに依存するシステムでは、リアルタイム性、データのセキュリティ、通信トラフィックの増大、データセンターでの消費電力が増大するなどの課題も顕在化して来ております。さらに、世の中の要求は個別化、多様化が進展しており低コストでカスタマイズが容易な仕組みとしてプラットフォーム化が重要となりつつあります。

■ コンソーシアム設立の目的

これら課題を解決する IoT システムについて部品・デバイス側から検討を進めて来ました。この度、この構想を具現化するためにエッジ側技術を基軸とする IoT システムのプラットフォーム化活動の推進に賛同する機関が集まり、エッジプラットフォームコンソーシアムを設立致しました。

本コンソーシアムでは、現場の課題を持つニーズ側と課題解決のための技術を持つシーズ側が協働してエッジシステムの実現を容易化するプラットフォームの構築を目指します。エッジプラットフォームを活用することにより、用途に適したエッジシステムを構成するコンポーネントの選択とシステムの構築が容易になります。これにより、シーズ側は、エッジシステムを構成する技術の横展開が容易となり、ニーズ側は、課題解決に必要な IoT システムの構築・導入が容易となります。

本コンソーシアムでは、各種既存の IoT 関連コンソーシアムと協調するとともに、産学による英知を集めてエッジ側の技術活動を最大限に生かし、新市場形成を加速する一翼を担っていきたいと考えています。

■ 本件に関する問い合わせ先

エッジプラットフォームコンソーシアム事務局

株式会社デバイス&システム・プラットフォーム開発センター内

神奈川県川崎市幸区堀川町 580 番地 ソリッドスクエア東館 10 階

TEL : 044-201-9030 FAX : 044-201-9031

E-Mail : staff@epfc.jp、<http://www.epfc.jp>

(別紙)

■ エッジプラットフォームコンソーシアム会員一覧 (2017年5月31日現在)

(一般会員 29社)

- ・ 株式会社アイエスビー東北
- ・ アーズ株式会社
- ・ 株式会社アドバンテスト
- ・ アナログ・デバイス株式会社
- ・ アルプス電気株式会社
- ・ カウラ株式会社
- ・ 旭光電機株式会社
- ・ コーデンシ TK 株式会社
- ・ 株式会社シマブンコーポレーション
- ・ ジャパンシステム株式会社
- ・ 株式会社図研
- ・ 太陽誘電株式会社
- ・ 株式会社テクサー
- ・ テセラ・テクノロジー株式会社
- ・ 株式会社デバイス&システム・プラットフォーム開発センター
- ・ 株式会社東京ウエルズ
- ・ 株式会社東芝インダストリアル ICT ソリューション社
- ・ 株式会社東芝ストレージ&デバイスソリューション社
- ・ 東芝マイクロエレクトロニクス株式会社
- ・ 凸版印刷株式会社
- ・ 株式会社トッパン・テクニカル・デザインセンター
- ・ ニューソン株式会社
- ・ 株式会社バッファロー
- ・ パナソニック株式会社
- ・ 富士電機株式会社
- ・ 富士アイティ株式会社
- ・ 株式会社モルフォ
- ・ リコー電子デバイス株式会社
- ・ 株式会社 UL Japan

(賛助会員 2機関)

- ・ 九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会
- ・ Z2A 企画

*一般会員は、IoTに関するニーズ/シーズを持つ企業。賛助会員は、本コンソーシアム活動に賛同する学術界などの個人・団体